SEIGAKUIN UNIVERSITY

第１１号

聖学院大学

SEIG WORLD NEWS

発行日 2014年10月1日

新入留学生歓迎会が開催される

目次：

新入留学生歓迎会が開催される P1
国際交流会が開催される P1
アメリカ提携校～オグルソープ大学特集 留学体験記 P2
アメリカ提携校～オグルソープ大学特集 留学体験記 P3
交換留学生紹介 P4
留学生在籍状況お知らせ P4

今年度も昨年度に引き続き、４月22日(火)のお昼休みに「新入留学生歓迎会」がエルピスホールで開催されました。「新入留学生歓迎会」は、留学生同士だけでなく日本人学生とも知り合い、お互いの理解を深める場として、聖学院大学の名物イベントとして定着しつつあります。今回は、４月からの授業時間帯変更で開催時間が１時間短縮されたにもかかわらず、昨年の参加者30名の２倍を超える63名が一同に会しました。短い時間ではありましたが、参加者はそれぞれ自己紹介をし、軽食を取りながら自国の食べ物や文化の話題に花を咲かせました。今年度は約50名ほどの新入留学生が聖学院大学に入学しましたが、留学生はなかなか日本人学生と知り合うきっかけを見つけられないという声をよく聞きます。そのような中、この「新入留学生歓迎会」が留学生と日本人学生を繋ぐ橋渡しの役割を果たす役割は年々増しているといえます。会の終わりには国際交流同好会「まのと」のメンバーから活動紹介と誘いがあり、会は盛会のうちに閉じられましたが、今後の学生生活においても、同じキャンパスに集う友として、国境を越えた友情が育まれてゆくことを願ってやみません。

国際交流会が開催される

例年好評を博している「国際交流会」が今年度も６月11日(水)アセンブリーアワーに開催されました。本学には11の国と地域から来た206名の留学生が在籍しています。今年は６つの国・地域の代表がクイズ形式で「自国の文化紹介」を行い、クイズの正解者には豪華賞品が手渡されました。発表者は発表順に台湾のゴ・ガクテイさん、マレーシアのタン・ホワン・スンさん、ベトナムのグエン・トゥアンさん、タイのトゥンノーク・ナッタクンさん、韓国のイ・テウックさん、中国のチョウ・リッシさん。発表の際、それぞれの文化について、趣向を凝らしたクイズが出題される度に、会場の参加者から一斉に手が挙がり、正解者が出ると大きな歓声が上がりました。さらに、発表後の懇親会時には、特別企画として日本語特別クラス有志による合唱、クイズ、民族衣装を着てのダンスが披露され、会の最後に花が添えられました。この「国際交流会」を通して、同じ会場に居合わせた学生、教職員合わせて約130名の参加者は国籍、文化背景の違いを越えて一つになり、心からの交流の時を持つことができました。これを契機にさらなる国際交流の輪が広がっていくことを期待したいと思います。

阿久戸理事長(中央)、佐野国際部長(左)と発表者

懇親会での歓談

民族衣装でチーズ！

日本語特別クラスチーム

アメリカ提携校交換留学～オグルソープ大学特集

Oglethorpe University (U.S.A.) - 長期留学体験記　2013年秋～2014年春

聖学院大学には海外で語学力を磨きたい、専門分野を深めたい、異文化を学びたいなどといった一人ひとりの目的や目標に合わせた様々なプログラムを用意しています。その中でも最も長い海外生活を経験できるのが、提携校への長期交換留学です。この制度を利用することにより、聖学院大学の学生は、聖学院大学に授業料を納めれば、現地提携校に授業料を納めることなく１～２学期間、交換留学生として現地校へ派遣され、現地で取得した単位を聖学院大学の単位へと振り替えることができます。今回は、2013年度秋学期よりアメリカの提携校であるオグルソープ大学へ留学し、帰国したばかりの欧米文化学科４年生の丹下今日子さんと波多栄美さんの留学体験を特集します。

オグルソープ大学キャンパスで

欧米文化学科4年（留学時3年）丹下 今日子 さん

海外留学を経て英語を使いこなし、世界中の人とコミュニケーションを取れる人間になることが私の幼い頃からの夢でした。Oglethorpe大学の交換留学生として、１年間滞在するという形で無事夢を叶えることができましたが、この経験が、決してゴールではなく、私のスタートなのだと思い知らされました。家族と離れて暮らし、現地の学生や世界中から来た留学生達との生活の中で自分自身と向き合う日々を過ごしていけばいく程、自身がいかにモノを考えていない、未熟だらけの人間であったかということが分かったのです。

英語が理解できない、話したいことが山ほどあるのに伝えられない、自信が持てない、これから起こることが怖い、失敗することが怖い――。慣れないことだらけの生活に上手く馴染めず、数え切れないくらいの悩みを抱えて悪戦苦闘していた私を助けてくれたのは、他国の留学生やクラスメートの友達でした。いつも笑顔を絶やさず、親身になって私の話を聞いては彼らなりのアドバイスをくれ、励ましてくれました。私がそこで衝撃を受けたのは、まるで学校の先生や両親からもらえるような、信念がこもっていて卓越した意見を、私とほとんど同い年である若者達が言っているということでした。何故かを彼らに尋ねると、「絶対的に信じている思想が私の中にあるから」「不安があっても笑顔で平気を装って振る舞えば、僕はやり過ごせると知っているから」「自分自信の魅力が何かを知っているから」と、様々な返答が間髪入れずに返ってきました。それを聞いて、「私は、私自信の“軸”を持っていない」と痛感したのです。この時までの私は万事に対して、良く言えば客観的、悪く言えば思考放棄の状態にいました。例え小さな事でも大きな事でも、私がそれを好きか嫌いか、良いか悪いか、それは何故かを、“一概に言えない”という一言で片付け、「私自身が」どうあるのか、どうしたいのか、などを一切考えていなかったということなのです。その思考の積み重ねが人の行動や思考の軸となる信念を作り上げるものだと気づいたとき、今までの私のありかたを後悔せずにはいられませんでした。それから私は徹底的に何かに対して感じたこと、気づいたこと、やりたいことなどの私が瞬間的に頭に浮かんだ事を、絶えず口走ったり説明したりして発信し続けました。思考を頭の中にとどめるのでは無く、実際に言葉にすることで、その思いは強固になるということを肌で感じました。

今では逆に、思った事を瞬時に口走ってしまう極端な性格になりましたが、自分の口から出る思いを自分の耳で聞くことで、やっと「私」という人間が何なのか、理解できるようになりました。留学で自身がこんなに変わるとは想像もしていませんでしたが、私の中にも確かな「軸」を手に入れられたと確信しています。

ツーショット！

学友たちと（中央が丹下さん）

クラスの仲間たちと

お話しタイム

欧米文化学科4年（留学時3年）
波多 栄美 さん

大学３年生の夏から４年生の春まで約１年間、アメリカのジョージア州、アトランタにあるオグルソープ大学に留学しました。今までの人生の中で、最も内容の濃い１年間だったと言えるでしょう。ただ、全てが違う文化や習慣だったからではなく、この世界に生きる者として大切な事を得たからであります。

まず、留学先のオグルソープ大学では、主に教育学関係の授業や美術の授業などを取りました。初めての授業で緊張している私を丁寧に教えて下さったのが、教育心理学の先生でした。毎回の授業で約30ページのリーディングが宿題にだされ、また時にはプレゼンやレポートが出るので、最初はついていくのが大変でした。なので、約一ヶ月は図書館で過ごしているようでした。分からないところがあれば、先生のオフィスに行って教えてもらうこともありました。オグルソープ大学は少人数制の授業で、教授と生徒の距離が近く、とてもアットホームな感じの大学でした。授業は決して簡単ではなかったですが、勉強しやすい環境で毎日楽しく充実した日々でした。

仲間たちと（前列左が波多さん）

先生と（右側が波多さん）

楽しいことは、キャンパス内だけではありません。ボランティアとして約80%スパニッシュ系のアフタースクールで、小学６年生から中学２年生までの子どもに美術を教える手伝いをしました。また授業の一環として、アトランタ市内の様々な小学校を見学しました。週末は、よく友達と車でショッピングに行ったり、野球観戦に行ったりと息抜きし、日曜日には学校から２駅行った所にある教会に友達と行きました。その教会では、月に二回程大学生の集まりがあり、そこにも参加しました。アトランタ市内の様々な大学から毎回約100人ぐらいが集まり、聖書についてディスカッション、神様について語り合いまいした。

また、冬休みには大学のボランティアとして、ニューオリンズに１週間行き、貧しい地域にあるアフタースクールで子ども達の宿題を手伝ったり、夕方まで遊んだりしました。また、ハリケーンカトリーヌ後の一番被害の多かった地域に行きました。８年の月日が経過してもなお残るハリケーンカトリーヌのつめ痕をみて、未だにアメリカに残る人種、断層のギャップという複雑で深刻な問題を目の当たりにしました。１年間の留学で得た大切な事は、まさに様々な違う人種、バックグランドを持つ人々が共に生きてゆくには、人を自分のものさしで計るのではなく、愛する思いで受けとめることでした。

If you judge people, you have no time to love them. -Mother Teresa-

We may have all come on different ships, but we’re in the same boat now.

-Martin Luther King Jr.-

留学の思い出の数々

オグルソープ大学（アメリカ）
Oglethorpe University (U.S.A.)

聖学院大学との提携：1989年
大学の場所：ジョージア州アトランタ市
創　立：1835年
学生数：約1,250名
特　色：幅広い教養の修得を目的とした少人数制のクラスが特徴

交換留学生紹介～ウィリアム・サンドバーグさん（日本文化学科3年）

アメリカ提携校・ラグレインジ大学より、交換留学生として来日したウィリアム・サンドバーグさんの紹介をします。サンドバーグさんは幼い頃からアメリカで日本人家庭と家族ぐるみの交流があり、その方々を通して日本文化に興味を持つようになったとのことです。中でも特に心に響いたのが宮崎駿監督のジブリ映画で、日本語を学ぼうと思ったのはジブリ作品の影響が大きいようです。日本の提携校である聖学院大学に留学することを決め、９月からおよそ一年間、日本で生活することになりましたが、この機会に、日本でしかできない経験をどんどんしてゆきたいと語ってくれました。サンドバーグさんはバイオリン、ピアノ、ギターを弾きこなす音楽家でもあり、将来の夢は作曲家になること。そのために日本の大学院に進学し、作曲の先生（できれば久石譲さん）について、クラシック、現代曲、ゲーム音楽を作曲してゆきたいとのことです。日本で行ってみたいところは富士山、東京タワー、東京スカイツリー。一年間、聖学院大学で勉強しますので、みなさん、お友達になってくださいね。

ラグレインジ大学からの交換留学生
ウィリアム・サンドバーグさん

ラグレインジ大学（アメリカ）
LaGrange College（U.S.A.）

聖学院大学との提携：2005年
大学の場所：ジョージア州ラグレインジ市
創立：1831年
学生数：約1,000名

大学教授会でバイオリンを披露する
サンドバーグさん

外国人留学生国別在籍状況

	国籍名	合計
1	中国	174
2	韓国	11
3	ベトナム	7
4	ネパール	3
5	タイ	2
6	台湾	2
7	マレーシア	2

	国籍名	合計
8	イラン	1
9	スリランカ	1
10	セネガル	1
11	ベナン	1
12	ミャンマー	1
2014年9月1日現在		206

お知らせ・イベント

9月　秋入学式・卒業式
　　秋の留学生ガイダンス
10月　夏期海外研修帰国報告会
　　春期海外研修募集開始
11月　春期海外研修締切・面接
　　第10回英語スピーチコンテスト（高校生向け）
12月　第12回聖学院大学留学生日本語弁論大会
1月　春期海外研修準備講座
2月　春期海外研修出発
3月　春期海外研修帰国
　　留学生ガイダンス
　　卒業式

SEIGAKUIN UNIVERSITY

聖学院大学　国際交流・英語教育課
〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号
2号館1階 2103
TEL 048(725)2801　FAX 048(781)0094
Email: kokusai@seigakuin-univ.ac.jp
窓口受付時間
月 9:00～17:00 火～土 9:00～11:10, 12:10～17:00